

2024(令和6)年度公認審判員研修会・新規資格取得講習会

大分県ソフトバレーボール連盟公認審判員
チーム代表、ソフトバレーボール競技新規資格取得者 兼
大分県ソフトバレーボール協会 公印
会長 川崎 栄一 省略

令和6年度公認審判員研修会・新規資格取得講習会の案内

下記の要領により大分県ソフトバレーボール連盟公認審判員(ソフトバレーボール)の審判員研修会及び新規資格取得講習会を開催いたしますので、その趣意をご理解の上参加願います。
必ずチームより1名以上の出席をお願いします。

開催の目的
競技規則の正しい理解と審判技術の向上を計り、バレーボールの普及発展に貢献する。

日時・場所
公認審判員研修会/新規資格取得講習会
令和6年5月5日(日)午前9時30分～12時【午前9時受付】 大分市 南部公民館 集会所

講師
日本バレーボール協会公認ソフトバレーボール・マスター1級者

受講対象者
大分県バレーボール協会公認審判員(C級ソフト)資格取得者又は更新者及び新規資格取得者
(下記の回答書・アンケートは返送して下さい。なお、ルールブックは660円(税込)で購入して下さい。)

受講料
2,000円 講習会当日、会場にて納入をお願いします。

その他
ルールブック(660円)は当日会場にて販売します。且、送料と送料又は当日会場にて購入して下さい。
ソフトバレーボール公認審判員(1名、500円)を当日会場にて、現金と引換えになります。

(注)
① 出・入場書(回答書)用紙に記入し、下記宛先へ送付して下さい。
② 公認審判員規定の通り実施しない場合は、公認審判員資格の無効又は抹消されたものとします。
③ 令和5年度の活動報告書提出

送付先
〒879-5102 由布市湯布田町川上3686-3 TEL/090-6774-0017
「E-mail」 masahirocho@yahoo.co.jp 加藤 誠啓 宛て

送付締切日
令和6年4月30日(火)必着のこと

キトリセン

令和6年・審判員研修会出欠回答(該当項目に○印にシ点を付ける。)

出席者	<input type="checkbox"/> 5月5日研修会に参加する。	<input type="checkbox"/> 5月5日新規資格取得講習会に申込み。
欠席者	<input type="checkbox"/> 研修会に参加できないが公認審判員を続ける。(受講料2,000円、ルールブック660円を各自持ち)	<input type="checkbox"/> 研修会に参加できないが新規資格取得講習会に参加する。(受講料2,000円、ルールブック660円を各自持ち)
送金	<input type="checkbox"/> 公認審判員を辞退したいので、研修会に参加しない。	<input type="checkbox"/> 審判員登録簿・新規資格取得申込書(令和6年3月31日現在)を事務局に提出し、研修会に参加しない。

どちらかに○を記入し、事務局へ送付して下さい。研修会に参加しない場合は、研修会当日の会場にて、研修会に参加しない旨を事務局へお知らせください。

事務局
〒879-5102 由布市湯布田町川上3686-3 TEL/090-6774-0017
「E-mail」 masahirocho@yahoo.co.jp 加藤 誠啓 宛て

所属チーム



2024年2月1日印刷 定価：本体606円(税別)

不許複製

ソフトバレーボール競技規則

編集者 公益財団法人 日本バレーボール協会
著者 審判規則委員会 指導普及委員会

発行者 公益財団法人 日本バレーボール協会

〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷1-30-8
ダヴィンチ千駄ヶ谷内
電話 03-5786-2100 (代)
http://www.jva.or.jp

案内

まえがき

ソフトバレーボールは、1987年正式に競技規則を制定し、歩み始めてから37年を過ぎました。当時、国民のスポーツニーズが競技的スポーツから、自らが積極的に行うスポーツ(生涯スポーツ)志向に変化しつつある中、ニュースポーツと呼ばれる分野で様々なスポーツが誕生しました。バレーボール界においても、バレーボール愛好者の増加につなげるため、幅広い年代で楽しめる新しいバレーボールとして考案されたソフトバレーボールは、その後、愛好者が全国各地で増加し現在に至っています。競技規則は、6・9人制バレーボールの長所を生かしながらソフトバレーボールの本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿い、適合したものとなるよう心掛けた編集を行いました。

本年度は、監督およびチームキャプテンの権利と義務の表現をより明確にし、フットフォルトとパッシングザセンターラインをペネトレーションフォルトに統一するなど、以下の修正を行いました。

なお、前年度から修正した部分は下線で表記しました。

●修正点

- 本文の修正
 - 第2章 チーム
 - 競技参加者の権利と義務
 - 監督の権利と義務
 - 監督は各セットの開始前に、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。
 - 監督は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。
 - 監督は、試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていない限り、競技中断の関は立ち上がりて指示をしても良い。
 - 監督は、選手交代およびタイムアウトを要求することができる。しかし、選手としてコート内にいるときは、その権利を失う。
 - 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異議を申し立てることは許されない。
→監督の権利と義務の条項を加え、これまでの条項を6.2.3から6.2.5に繰り下げる修正をした。
 - チームキャプテンの権利と義務
 - チームキャプテンは次のことを行う。
 - インプレー中に書中が支柱のネットの幅の部分に接触した。

ルールブック(660円)

6.3.1.1 監督が不在の場合、サインしたラインアップシートを副審または記録員に提出する。

6.3.1.2 チームを代表してトスを行い、監督が不在の場合は試合前、公式記録用紙に記載された選手に誤りがないか確認しサインする。

6.3.1.3 試合終了後、公式記録用紙にサインした結果を承認する。
→チームキャプテンの権利と義務の条項を加える修正をした。

6.4 選手の服装

6.4.2 選手のユニフォームには胸部と背部の中央に、胸部には高さが最小10cm、背中には高さが最小15cmで字幅は2cm以上のユニフォームと異なる色の1から99の番号を付けないといけない。なお、全国大会では、年齢、性別によって番号を指定することがある。
→ユニフォーム番号のサイズに高さの表記を加え、使用できる番号の修正をした。

第3章 試合の準備と進行

10 選手の位置とローテーション

10.1 位置

10.1.2 サーバーによりボールが打たれた瞬間に両チームの選手は、サーバーを除きコートの内側で、それぞれのポジションに位置していないといけない。

10.1.2.2 フロントの選手とバックの選手の位置関係
各フロントの選手の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの選手の両足よりも、センターラインの近くに位置していること。ただし、バックの選手が対角となるフロントの選手より前方に位置しても反則とはならない。

10.1.3 サービスが打たれた後は、どのように移動してもよく、プレー上の制限はない。
(第2回 ローテーション)
→重複した条項を削除、整理する修正をした。

第5章 プレー上の動作と反則

17 サービス

17.4 サービスの実行

17.4.7 サーバーのペネトレーションフォルトやサービス側のアウトオブポジションとレシーブ側のアウトオブポジションが同時に起こったときは、サービス側の反則とする。
→フットフォルトをペネトレーションフォルトに修正した。

19 アタックヒット

19.4 サービスされたボール全体がネット上端より高い位置にあるときに、

修正点@パッシングザセンターライン、フットフォルト⇒ペネトレーションフォルト

令和6年 審判員研修会・新規資格取得講習会
競技規則問題

都道府県名 _____
氏名 _____

問題(1) 次の()に入る数字を答えなさい。

- 競技場の表面から最低限()mの高さよりフリーゾーンにはネット、支柱、審判台を除き、一切の障害物があってはならない。
- ボールはゴム製で、重さ()g、円周()cmの公益財団法人日本バレーボール協会検定のソフトバレーボールを使用する。
- ブレイクのトスは第1セットの主審のサービス許可の吹笛()分前に開始する。
- 公式オームアップはそれぞれ()分間隔することができる。両チームのキャプテンが合意すれば合間で()分間隔することができる。
- 2セット目のコート内へ帰る吹笛は、前のセット終了の()分()秒後に副審が行う。
- タイムアウトは1回につき()秒間で、1セットに最大()回まで要求することができる。
- コートは()m×()mの広さを持つ長方形である。
- サービスゾーンは、それぞれのエンドライン後方に位置する幅()mのゾーンで、サイドラインの延長上エンドラインの()m後方に()mの長さで引く2本の短いラインにより両端を区画する。

①() ②() ③() ④()
⑤() ⑥() ⑦() ⑧()
⑨() ⑩() ⑪() ⑫()
⑬() ⑭() ⑮() ⑯()

問題(2) 次のプレー中の動作はどのような反則になるか、該当する反則名を口の中から選んで記入しなさい。

- 床に落ちそうなネット際のボールをレシーブしたら、肘が相手コートに接触した。
反則名()
- 第2回目打球をレシーブしようとしたら、一つの動作中に身体2箇所に接触した。
反則名()

- インプレー中に書中が支柱のネットの幅の部分に接触した。
反則名()
- サービスしたボールがフリーゾーンの区画を越えた。
反則名()
- レシーブしたボールがフリーゾーンの区画を越えた。
反則名()
- 相手から打たれたサービスを書の高さの選手がネットより完全に高い位置でレシーブしたら誰にも触れずそのまま相手コートにボールが入った。
反則名()
- 移動式支柱の土台(おもりの部分)に足をかけてボールをレシーブした。
反則名()
- サイドラインの延長線上のラインの外側に踏み切つてサービスをした。
反則名()
- 両チームの選手がネット上で同時に触れたボールがアンテナに接触した。
反則名()
- ボールをレシーブしたら、隣接するコートに侵入してしまった。
反則名()
- スパイクした手が、ボールが床に接触する前にアンテナに接触した。
反則名()
- サービスした瞬間、味方選手の足がサイドラインより外側に位置していた。
反則名()
- サービスした瞬間に、レシーブ側のフロントラインの選手の片足がフロントラインの選手より左側に位置していた。
反則名()
- スパイクを打ったら体がネットに接触しそうな状態で、ボールが床に接触する前にネットの下を通り抜けて相手コートにフリーゾーンに侵入した。
反則名()

フットフォルト	サービス側の誤り	アウトオブポジション	インターフェア
サービスの反則	アタックヒットの反則	ブロックの反則	トランブル
オーバータイムス	ホールディング	ペネトレーションフォルト	
ボールアウト	ダブルファウル	パッシングザセンターライン	
タッチネット	オーバーネット		

問題(3) 次の権利と義務のうち、チームキャプテン及び監督の両方の権利と義務には○を、どちらか片方の権利と義務には×を記入しなさい。

- ブレイクトス ()
- 試合開始前の記録用紙への署名 ()
- 選手交代の要求 ()
- タイムアウトの要求 ()
- チームのポジションの確認 ()
- 競技規則換用の解釈についての質問 ()
- チームの規律についての責任 ()
- 試合終了時の記録用紙への署名 ()

競技規則問題



研修受付(バッジ、ホイッスル販売)



開会のあいさつ



研修講話 (審判員とその責務)



ルールブック説明



ルールブック説明



コート設営研修



コート設営研修





コート設営実習



審判研修実技



審判研修実技



審判研修実技

記録研修実技

研修閉会式